

各団体による野菜の消費拡大の取組みについて

資料 3-1

会 員 名	取 組 概 要
全国農業協同組合連合会	<p>1 「やさいの日」の取組み (1)開催時期:8月31日の前後を予定 (2)場所:未定 (3)内容:各県の特産野菜の紹介、野菜摂取促進を訴求したチラシ等の配布 等 (イベント等の内容は今後検討)</p> <p>2 ラジオ放送局(関東圏)と連携した取組み (1)実施時期:平成24年4月～9月(予定) (2)内容: ア. ラジオでの青果物に関する情報(商品・産地・出荷情報、料理レシピ等)提供 イ. リスナーと生産者との交流イベントの実施(定植・収穫体験等) ウ. 青果物の販売促進イベントの実施</p> <p>3 大学との連携による食育セミナーの開催 (1)実施時期:平成24年11月(予定) (2)場所:関東圏の大学(予定) (3)内容(予定): ア. 青果物の摂取促進を内容とする特別講義 イ. 有識者と学生による「食」と「農」をテーマとするディスカッション ウ. 大学生協との連携による国産青果物を使った料理メニュー提案</p> <p>※なお、上記内容については、各県本部も取組みを行なっているが、本所の取組みのみを記載。</p>
消費科学連合会	<p>消費者団体として (1)放射性物質の野菜についての勉強会 (2)野菜が高値の時はどの様にすれば良いか?</p>
全国地域婦人団体連絡協議会	<p>1 全国地域婦人団体連絡協議会 機関紙を通じて各団体に対して消費拡大の取組み依頼及び地産地消の取組みをするよう掲載し野菜関係の広報・情報提供をする。</p> <p>2 全国地域婦人団体連絡協議会 (1)生産者等野菜需給関係者(団体)との意見交換の場を積極的に設けるよう依頼 (2)消費拡大等の取組み事例の情報提供依頼(機関紙への記事提供依頼)</p>
社団法人日本栄養士会	<p>1 “野菜を食べよう2012”・“食で防ごう糖尿病”の開催 平成24年8月31日(金)[野菜の日]に、香川県(野菜の摂取量が全国最少、糖尿病の受療率全国一)高松市において、香川県健康増進キャンペーンとして、一般の方を対象に開催予定。 ・「野菜たっぷり350(サン・ゴー・マル)」運動宣言 ・野菜、糖尿病に関する講演・実演・実技 ・野菜クイズ ・管理栄養士による栄養相談 ・展示・体験コーナー</p> <p>2 “ヘルシーダイアリー”の作成 野菜、糖尿病等をテーマに、あらゆる世代の方の食生活支援を目的として作成し、本会ならびに都道府県栄養士会で、管理栄養士・栄養士が行う栄養相談・食生活相談で使用。</p> <p>3 もっと知りたい「野菜と植物性乳酸菌」セミナーの開催 茨城県をはじめ全国5会場で、管理栄養士・栄養士を対象として開催予定。</p>
野菜と文化のフォーラム	<p>食べておいしさを知る野菜の学校2012の開催…別紙 地域の伝統野菜・地方野菜をテーマに毎月、地方産やハイブリッド種との食べくらべを行うなど、古くて新しい野菜の世界を探っていく。</p>
NPO法人青果物健康推進協会	<p>1 国産農産物の認定事業 通称「長谷川理恵認定」として、国際競争力の高い農産物の認定事業。「おしやれ感」など、新たな価値基準を導入することで潜在価値を創出する。検査員がほ場検査のうえ、報告書を作成し、判定委員会で決定する。認定されると「アールズベリーマーク」を1年間貼付できるうえ、外食認定店並びに会員百貨店、スーパーなどへ紹介する。</p> <p>2 外食・社食・スーパーの認定事業 「岸朝子の野菜がおいしゅうございます認定店」など岸朝子会長名で認定し、国産青果物の消費拡大に寄与する。「外食認定」のほか「社員食堂認定」、「スーパーマーケット認定」などがある。</p> <p>3 産地と連携したスーパーでの研修事業 産地の青果物をより積極的に店舗担当者が勉強するための研修会を開催する。販売手法なども指導する。</p> <p>4 健保組合・企業と連携した食生活改善研修 「大人の食育」として企業の健康管理部門や健保組合と連携して従業員の食生活改善に貢献する研修会、メールマガジン発行、検定試験などを行う。また、外食認定店とも連携して野菜の摂取拡大にも貢献する。</p> <p>5 小学校等での食育出前授業の実施 学生・児童向けのカリキュラムを開発し、子供の野菜嫌いを克服し、家庭学習意欲を高めることで、家庭での青果物摂取拡大に寄与する。</p> <p>6 乾燥野菜(ベジほし子)の研究事業 野菜を乾燥させることで賞味期限の長い新しい野菜の開発、研究を行い、価格低落時の野菜の活用を研究する。</p> <p>7 野菜摂取拡大のための認定事業 ベジフレエ・メンバーというコミュニティを立ち上げ、国産青果物の消費拡大に向けて一斉行動をとり、意図的な消費拡大に貢献する。</p> <p>8 野菜摂取拡大のための認定事業 事業の推進に積極的にかかわる講師(VFT)を養成し、活動の幅を広げる。</p>

会 員 名	取 組 概 要
ファイブ・ア・デイ協会	<p>1 子どもへの食育プログラム(4月～翌3月) 実施予定:年間800回／対象人数25,000人 ・園児向け「たべるのおはなし教室」 ・小学生向け「5ADAY食育体験ツアー」</p> <p>2 企業従業員向け食育 ・従業員食堂を利用した「野菜たっぷり健康キャンペーン」 ・社員向け研修会を利用した「食事指導セミナー」</p> <p>3 野菜摂取目安量表示 野菜・果物製品(カットサラダ等)への野菜摂取量の具体的な表示マークを開発する</p>
全国青果物商業協同組合連合会	<p>毎年秋を中心に行われる全国の各市場祭りを中心に各種イベントを通して消費拡大に努める。 全国の市場でも同様な取り組みをしている。</p>

食べておいしさを知る 野菜の学校 2012

続々「日本の伝統野菜・地方野菜」受講生募集

NPO 法人野菜と文化のフォーラムが主催する「食べておいしさを知る野菜の学校」(以下「野菜の学校」)は、一昨年より2年間、伝統野菜・地方野菜をテーマに講座を設け、大変好評を博してきました。受講生からは「野菜にこんな味があったのか!」「野菜の見方、食べ方が変わった!」と驚きの声が聞かれます。引き続き来期(2012年4月~翌年3月)も、この2年間で取り上げられなかった地域の伝統野菜・地方野菜をテーマに展開します。



伝統野菜といえば、京都や加賀がよく知られており、講座の1年目にとりあげました。両者を筆頭に、全国各地で伝統野菜を見直す動きが活発です。地産地消で産地の野菜直売所が活況を呈し、その地方独特の食文化が注目されてきています。

野菜は本来、その地の人々が長い時間をかけて伝えてきた「地域の文化財」という側面をもっています。この2年間、各地の野菜たちに出合うなかで、心から実感することができました。伝統野菜はその地・その時期にしか食べられないからこそ貴重であり、人々の知恵が働き、さまざまな物語をもっています。再評価されることで、新しい食文化が育つ可能性が広がると確信します。

とはいえ、伝統野菜の生産・流通に関してはまだまだ不安定な面が多く、各地でさまざまな試行錯誤が続けられています。そうした情報交換も、もっと活発にしていきたいと考えます。



「野菜の学校」では、毎月、一地方の伝統野菜をテーマに、他地方産やハイブリッド種との食べくらべを行うなど、古くて新しい野菜の世界を探っていきます。ふるってご参加ください。

◆カリキュラム

受付:12時30分 講座:13時~16時

回	開催日	地方	取りあげる野菜(予定)
1	4月7日	江戸(東京)	亀戸大根、東京うど、新宿一本ねぎ、のらぼう菜、しんとり菜、滝野川ごぼう
2	5月12日	千葉	一寸空豆、はぐらうり、坊主知らずねぎ
3	6月2日	秋田	ジュンサイ、秋田ふき、阿仁ふき、八木にんにく、山菜
4	7月7日	山口	白オクラ、田屋なす、はぎごぼう、白瓜
5	9月1日	伊予(愛媛)	松山長なす、絹かわなす
6	10月6日	吉備(岡山)	ごぼう3種、土居分小菜、万善かぶら
7	11月10日	埼玉	岩槻ねぎ、さといも、しゃくし菜
8	12月1日	博多(福岡)	鯉菜、博多にんじん、金時にんじん、小田辺にんじん
9	2月2日	茨城	赤ねぎ、浮島大根、貝地高菜
10	3月2日	特別企画	修了式、記念講演、ベジタブルパーティ

上記野菜は気象等の条件により変更になる場合があります。ご了承ください。

◆受講料

◇全期(10回):45,000円 ◇半期(5回):25,000円 ◇単発(1回):6,000円

※いったん納入された受講料の返金はいたしかねます。

<野菜と文化のフォーラム>

2012 年度「野菜の学校」受講申込書

事務局からの連絡の都合上、必ず記入してください。

申込日：2012年 月 日

ふりがな		会員() 非会員()
氏名		男性() 女性()
年齢	20～39歳() 40～59歳() 60歳以上()	
職業	1()生産者 2()市場・流通 3()小売り 4()加工業 5()農協 6()大学、試験場 など研究機関 7()食育関連・料理教室など 8()種苗・育種関係 9()マスコミなど 10()その他()	
連絡先	自宅() 勤務先()	
自宅住所	〒	
	TEL:	FAX:
	E-mail	
勤務先等	〒	
	組織名	
	部署名	
	TEL:	FAX:
	E-mail	

- お申込みは、郵送、ファクス、E-mail いずれでもけっこうです。
郵送の宛先：東京都台東区秋葉原 2-3 日農ビル内 NPO 法人野菜と文化のフォーラム
FAX：03-3582-0280 (ワーズワークス内)
E-mail：info@yasaitobunka.or.jp
- 定員：45 人 定員に達し次第締め切り。受講料の入金確認をもって、申し込みとします。
- 振込先：三菱東京 UFJ 銀行 秋葉原駅前支店
普通口座 0037764 名義 ミヤザキタケシ
- お問い合わせ：03-3582-0207 (10:00～18:00 ワーズワークス内)
- 本申込書にご記入いただいた個人情報については、受講決定のお知らせ等、野菜の学校実施に関する事務の目的にのみ使用します。

※ 「野菜の学校」の会場は、秋葉原駅徒歩 2 分、ヨドバシカメラ北隣、東京都青果物商業協同組合ビル 8 階会議室です。お申込みいただいた方には、追って地図をお送りします。